中南米諸国の貿易に関する若干のオブザーベーション

１．中南米全体の貿易（輸出入）額は2008 年に 2 兆ドルの大台に達し，リーマンショックで 2009 年に落ち込んだ後，2010 年には再び 2 兆ドル台を回復した。但し，この金額は，2010 年の全世界の貿易総額が 30 兆ドルを超えていた（IMF）ことを考えれば，特に中南米が「貿易が活発」といえるほどの金額ではない。2 兆ドルと言えば，同年のドイツ一国の貿易額より小さい。

２．とはいえ，中南米域内で見れば興味深い面もある。例えば，経済規模の観点から中南米最大の貿易国はブラジルと想像しがちであるが，実際はメキシコがブラジルを大きく引き離して恒常的に中南米最大の貿易額を誇っている。

３．上記の次第もあり，いわゆる太平洋同盟の貿易額は，MERCOSURよりも恒常的にかなり大きい（数年前まではメキシコ一国でMERCOSURの貿易額を上回っていた）。2010 年の場合，中南米全体の貿易総額に占める比率は太平洋同盟が 47.5%，MERCOSURが 33.2%。ざっと見て，それぞれ「半分」，「3 分の１」と覚えれば簡単。

４．中南米ではメキシコが第 1 位，ブラジルが第 2 位の貿易額となって上位 2 国の定位置が定まっているが，第 3 位，第 4 位はその時々によってチリとアルゼンチンが入れ替わる展開となっている。

５．今後，IMF等の統計を利用して世界の中での中南米の貿易の詳細比較を行うつもりであるが（今回使用したECLAC統計ではそれが行えない），IMF, *International Financial Statistics*, April 2012 の中の数値を見る限り，2010 年の場合，メキシコは世界第 15 位である（シンガポールより小さく，インドより大きい）。